

## 電力の競争市場は実現できるか

ベトナムは発電市場に競争を持ち込むことで同産業の発展促進を図ろうとしている。

2012年、国営企業である Vietnam Electricity (EVN)、Vietnam National Coal - Mineral Industries Group (Vinacomin)、Vietnam Oil and Gas Group (PetroVietnam) の3社で電力量の80%以上を生産しており、特にEVNの独占は顕著だ。2014年、同社は生産では60%以上、送電では100%、配電では90%を占め、結果として電力業界において大きな権力を持ち、外資参入の大きな障害となっている。これを解消するため、政府はベトナムの電力市場を生産から配電まで競争的な市場を実現する「競争的発電市場 (VCGM)」を2012年7月より本格的に開始した。3ステージに分かれており、ステージ1「生産における競争市場の実現」、ステージ2「卸売における競争市場の実現」、ステージ3「小売における競争市場の実現」となっている。現在、ステージ1を終えようとしている段階であり、30MW以上の発電プラントが競争的に価格設定を行い、唯一の買取事業者であるEVNに対して販売を行っている。

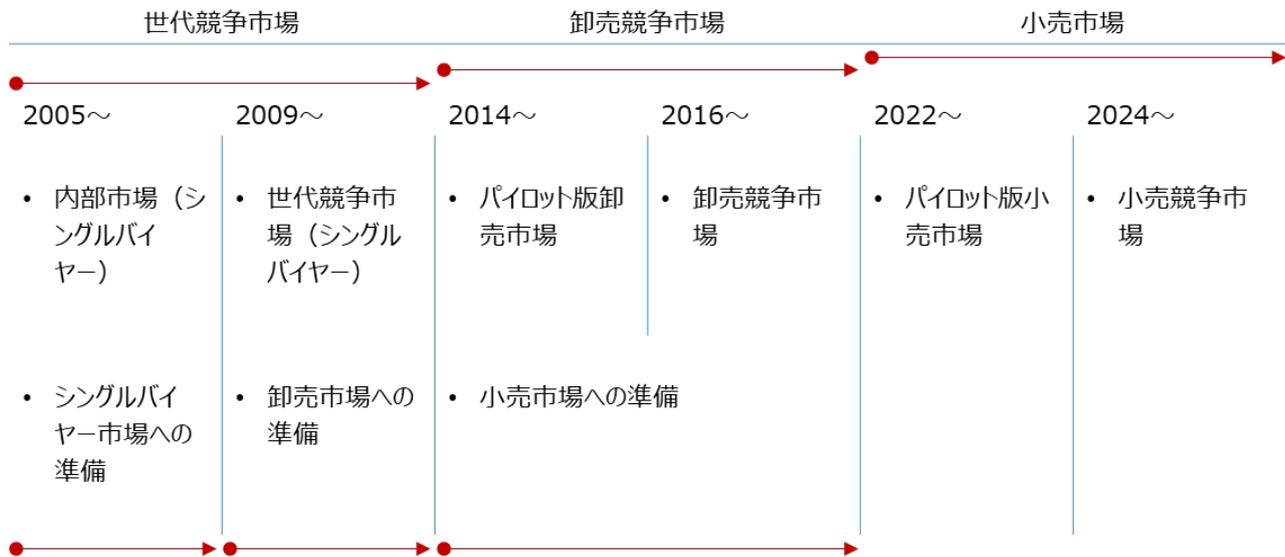
このように、競争的な市場の実現に向けて外資への門戸も開かれつつあり、日本などの外資によるPPPモデルの発電プラントも増加している。EVNのレポートによると、BOT方式の発電所は2001年から2011年までに7件となっており、現在、アメリカ、中国、日本などの外資により約10件のBOT方式のプロジェクトが進行中である。日本企業については国際協力銀行 (JBIC) の支援を受け、石炭火力発電のプロジェクトのBOT契約に向けて現在、交渉中である。ベトナムの電力インフラ整備のため、2011年から2030年まで年間62億ドルと巨額の費用が必要であると試算されており、PPP事業がキーソリューションになるとされている。

しかし、現在、2つの大きな問題がある。2005年、電力不足を受け、ベトナムは中国と2009年から2015年まで毎年一定量の電力を買い取るという長期電力売買契約を結んだ。そのため、2012年には国内発電プラントは70~80%しか稼働せず、低価格で国内需要を満たすことができる状況にもかかわらず、高価格で国内発電容量の4%を輸入した。2015年までにまた同じ状況となる可能性もある。また、販売先がEVNしかないというのも問題だ。EVN関連企業が電力生産も行い、前述したように60%以上を生産している。公正な市場を実現するためにはEVNと切り離されることが必要だが、現在のところ単独では財務的にも運営的にも十分成熟していない。

上記のような問題を解決し、産業発展の基盤となる電力インフラの市場に自由化が進むかどうか、国内外問わず、各業界の注目を集めている。



### ベトナム電力市場（VCGM）ロードマップ



資料：EVN